

ナミビア月報

(2021年7月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- 新型コロナ感染対策の強化措置
- 新型コロナ感染者用ベッドの増設
- デルタ変異株を確認

【外交・対外関係】

- 大統領、中国共産党創立100周年に寄せ祝意書簡を发出
- 大統領、故カウンダ・ザンビア初代大統領国葬に参列
- 独、180百万ナミビアドルの新型コロナ対策用医療資機材を贈与
- パンドール南ア国際関係・協力大臣来訪
- 大統領、ポルトガル語圏諸国共同体(GPLP)会合に出席
- サントメ・プリンシペとの間で二国間協力協定に署名
- モザンビークへのSADC軍派遣に対する財政的貢献の決定
- イスラエルのAUオブザーバー資格(AUCの決定)を拒否

【経済】

- 2021年3月末時点のナミビアの対GDP比公的債務は62%に上昇
- 国民の3分の1が食料不足
- 若者の失業率は50%に

【その他】

- クリスティーン及びビートリス、400メートル競技に出場できず
- 東京オリンピックへの選手団メンバー発表
- 大統領、東京オリ・パラ選手団を激励
- ダン・クラヴェン・サイクリング選手のオリンピック出場取下げ

【内政】

●新型コロナ感染対策の強化措置

6月30日、ガインゴブ大統領は、現下の第3波の新型コロナ感染状況は今後ますます悪化する様相を呈しているとして、7月1日から7月15日までの間、感染対策に係る措置を強化する旨発表した。主な強化策は、これまで、ウイントフック、オカハンジャ、レホボス地域に限定していた人の移動制限を全国14州に拡大すること、アルコール販売を月～

木曜日の09:00から18:00に限定すること、レストラン等の営業については、テイク・アウトを原則とすること等である。なお、大統領は、専門家の予測及びシミュレーションによれば現第3波のピークアウトは8月半ば、場合によっては9月半ばとなろうと述べた。(1日付ニューエラ紙1面)

●新型コロナ感染者用ベッドの増設

6月30日、シャングラ保健・社会サービス大臣は、新型コロナ感染者の急増を受けて、同感染者用ベッドを増やす意向を示した。ナミビアは、国立病院、私立病院を合わせて、現在、合計1,732床の新型コロナ感染者用ベッドを有している(その内ICUベッドは143床)が、今後、ウィントフック病院、オシャカティ病院等にベッドを増やし、全体で2,024床に増やす計画である。(1日付ニューエラ紙1面)

●デルタ変異株を確認

5日、ナンゴンベ保健・社会サービス省次官は、メディア・リリースを発売し、ナミビア大学で分析の結果、コマス州で陽性が確認された18件の検体を調べたところその内17件についてデルタ株が確認された旨公表した。シャングラ保健・社会サービス大臣は、デルタ株は感染力が強く、急速に広まり、重症化し入院が必要なケースが増えている。従って、感染を抑制するため、現下のコロナ対策措置の実施が重要である旨述べた。また、ハウフィク前保健・社会サービス大臣は、デルタ株の存在を踏まえると、死者を出さない唯一の方法はワクチン接種である旨述べた。(6日付ニューエラ紙1面、ナミビアン紙3面)

【外交・対外関係】

●大統領、中国共産党創立100周年に寄せ祝意書簡を发出

大統領は、中国共産党創立100周年に寄せ、習近平国家主席に対し祝意書簡を发出した。同書簡において、大統領は、南西アフリカ人民機構(SWAPO)、ナミビア政府及びナミビア国民を代表して、創立100周年をお祝い申し上げる旨述べ、また、中国共産党はアフリカ大陸における多くの解放闘争の動きと同様、帝国主義、植民地主義及び人種差別主義の勢力に対抗する指導的役割を果たしており、この故に、中国共産党の歴史的式典を共にお祝いしたい旨表明した。(1日付ニューエラ紙4面)

●大統領、故カウンダ・ザンビア初代大統領国葬に参列

2日、ガインゴブ大統領は、ナンディンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣を伴って、ルサカ・スタジアムで行われた故カウンダ・ザンビア初代大統領の国葬に参列した。

ガインゴブ大統領は、以下のとおり述べ哀悼の意を表した。

(1) 故カウンダ大統領は、我々の解放闘争の象徴として、アフリカ大陸に消すことのできない偉大な足跡を残した。故カウンダ大統領はアフリカ大陸の巨人であり、卓越した個性を有したアフリカ独立の創始者の一人である。

(2) 故カウンダ大統領は、自分にとって政治家としての父親でもあった。また、ナミビアの独立に向け多くのナミビア人の訓練・研修機関として機能した在ルサカ国連ナミビア事務所 (UNIN: United Nations Institute for Namibia) の設立に尽力するとともに、1976年8月26日の同事務所開所式にも出席していただいた恩人でもある (注: ガインゴブ大統領は、1989年まで初代UNIN所長を務めた。)。 (5日付ニューエラ紙3面)

●独、180 百万ナミビアドルの新型コロナ対策用医療資機材を贈与

・独は、180 百万ナミビアドル相当の新型コロナ対策用医療資機材を贈与する。同医療資機材は2回に分けてナミビアに配送される予定で、第一便が、アントノフ AN255 貨物輸送機により、8日、ホセア・クタコ国際空港に到着し、ナンディンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣とベック独大使との間で、引渡し式が行われた。同医療資機材は、医療用防護具、人工呼吸器、医療用ベッド、抗原検査キット等からなる。(9日付ニューエラ紙2面)

・新型コロナ対策用医療資機材の3回目の貨物が到着し、28日、ベック独大使とムイニヤング工保健・社会サービス省副大臣との間で引渡し式が行われた。今回の供与資機材は、GIZを通じた人工呼吸器、パルス・オキシメーター及びPCR検査キット等からなり、4百万ナミビアドル相当である。独からの新型コロナ対策用医療資機材供与額は190百万ナミビアドルを超えることとなる。(27日付ニューエラ紙4面)

●パンドール南ア国際関係・協力大臣来訪

14日、パンドール南ア国際関係・協力大臣が来訪し、ガインゴブ大統領を表敬訪問 (於: 大統領府)、大統領及びナンディンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣と会談した。同会談において、ガインゴブ大統領は、ズマ前南ア大統領の投獄に対する抗議行動に端を発した南アでの暴力行為について、ラマポーザ大統領への共感の念を伝えるとともに懸念を表明した。また、大統領は、ナミビアは新型コロナ感染拡大の状況下で重要とされる酸素も含めて多くの必要物資を南アに依存しているところ、現在の南アの状況に影響を受けている旨述べるとともに、貧困はどこにも存在するものであるが、略奪行為は何の問題解決にもならない旨懸念を表明した。パンドール大臣は、南アにおける状況は深刻であり、人命と財が失われている、国軍の展開により、平穏と安定が回復されるであろう旨述べた。(15日付ニューエラ紙1面、ナミビアンサン紙1面)

・ナミビア・南ア政治・外交協議会の開催

14日、15日の2日間、ナンディンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣とパンドール南ア国際関係・協力大臣との間で二国間政治・外交協議会が開催された。同協議会において、ナンディンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣は、南アで起きている略奪、犯罪について懸念を表明し、これに対し、パンドール南ア国際関係・協力大臣は、特に新型コロナ対策用に必要な物資、サービスを含めて南アからの物資、サービスの配送が阻害され

ることがないよう二国間輸送回廊のオペレーションを継続することを保証した。(16日付ナミビアンサン紙1面)

●大統領、ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)会合に出席

ガインゴブ大統領は、先週末、アンゴラのルアンダにおいて開催された第13回ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)首脳会議に、オブザーバーとして出席した。同首脳会議において、大統領は、我々は異なる言語を有するが、植民地主義との闘争という共通の言語を分かち合っている、また、現在では、貧困、腐敗及びCovid-19との闘いという共通の言語を有している旨述べた。更に、大統領は、アフリカ大陸自由貿易圏(AfCFTA)は雇用を創出し、経済を発展させるような産業の発展に繋がる多くの希望をもたらしており、更に、CPLPレベルでの協力関係にも利益をもたらすこととなる旨述べた。(19日付ニューエラ紙5面)

●サントメ・プリンシペとの間で二国間協力協定に署名

17日、ナンディ＝ンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣は、エディテ・テンジュア・サントメ・プリンシペ民主共和国外務・国際協力大臣との間で、二国間協力協定に署名を行った。同協定により、両国間の外交、経済、社会分野の協力の拡大が可能となる。同協定の署名は、17日、アンゴラにおいて開催された第13回ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)会合に際して、両大臣間で行われた。(20日付国際関係・協力省フェイスブック)

●モザンビークへのSADC軍派遣に対する財政的貢献の決定

27日、シャアニカ国際関係・協力省多国間関係局長代行は、モザンビークのカーボデルガード州におけるイスラム過激派との戦いに派遣されているSADC軍支援について、ナミビア政府として軍の派遣は行わず5.8百万ナミビアドルの財政的貢献を行うことを決定した旨述べた。現在、カーボデルガード州には、SADC軍としてボツワナ、南ア、ルワンダから軍が派遣されている。また、シャアニカ局長代行は、6月28日にオンライン形式により開催されたSADC臨時評議会において、同SADC軍派遣については、追加的にSADC加盟国から107百万ナミビアドル(7.3百万米ドル)を拠出することが決定された旨説明した。

カーボデルガード州におけるイスラム過激派による反乱は2017年に始まり、昨年来、急激に活発化している。ニュシ・モザンビーク大統領によれば、同州においては826,000人が家を追われ、2,000人の命が失われた由。(28日付ニューエラ紙1面)

●イスラエルのAUオブザーバー資格(AUCの決定)を拒否

28日、ナンディ＝ンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣は、ナミビアンサン紙のインタビューに応え、ナミビア政府は、イスラエルに対してアフリカ連合(AU)のオブザーバー資格を付与するとした先のアフリカ連合委員会(AUC)の決定を拒否する立場である旨明確にした。また、「ナ」副首相兼国際関係・協力大臣はかかるAUCの決定についてAU加盟国は協議されていない旨述べた。更に、「ナ」副首相兼国際関係・協力大臣は、AUCの規定に

よれば、AUにおけるオブザーバー資格の付与権限はAUC委員長にあるとされているものの、今次決定は自決権を含めてAUの基本原則に沿ったものではないので、ナミビア政府としてはこれを拒否する旨述べている。

AUCの本件決定については、南ア政府も、28日、国際関係・協力省がステートメントを発売し、AU加盟国との協議を経ずしてAUCが一方的に決定したものであるとして、かかる決定を拒否する旨表明している。アルジェリアも、先に、本件AUCの決定を非難した経緯がある。(29日付ナミビアンサン紙3面)

【経済】

●2021年3月末時点のナミビアの対GDP比公的債務は62%に上昇

中央銀行は6月末時点の4半期報告を公表した。政府は対GDP公的債務比率を35%以下に抑えろとの方針を取ってきたところ、2021年3月末の同公的債務比率は62%に上昇した。公的債務比率の上昇は、コロナ禍の経済低迷による税収の減少が主たる要因となっている。21/22会計年度中の税収については、SACUからの税収が147億ドルで、20/21会計年度に比し-36%、法人税が76億ナミビアドルで同-0.6%減少することとなる見込み。20/21会計年度中の歳入不足はアフリカ開発銀行(AfDB)からの借入れ15億ナミビアドル、IMF(RFI: Rapid Financing Instrument)からの借入れ39億ナミビアドル等を充当する(6日付ニューエラ紙10面)

●国民の3分の1が食料不足

今週、「世界の食料安全保障と栄養の現状」2021年報告が公表され、その中で、2020年まで、ナミビア国民の3分の1が食料不足に陥っているとの結果が判明した。また、全世界で811百万人が十分な食料が得られず、飢餓のレベルが世界的に拡大している。ナミビアについて、2018年時点では70万人が食料不足であったが、2020年では80万人に増加している。また、栄養失調にある人口は2018年40万人から2020年には50万人と悪化している。(14日付ナミビアンサン紙3面)

●若者の失業率は50%に

先週、第3次青少年政策が公表され、同政策の開始にあたりルソーUNFPA代表は、2021年末には、ナミビアの若者の失業率は50.3%に達することになると述べた。また、同代表は、ナミビアにおける10歳から24歳の青少年の人口は全人口の3分の1を占めており、若者個々人の、コミュニティの、更には、アフリカ大陸の、将来のより良き繁栄を獲得するためには、若者の健康とエンパワーメントは不可欠の要素である旨述べた。2018年版ナミビア労働力調査報告書は、2016年の若者の失業率は43%であったものが、2018年には46%となっており、若者の失業問題への対処の必要性を指摘している。(26日付ニューエラ紙1面)

【その他】

●クリスティーン、ビートリス、400メートル競技に出場できず

来る東京オリンピックで、400メートル競技に出場、好記録が期待されていたクリスティーン (Christine Mbona) 及びビートリス (Beatrice Masilingi) 両選手の同競技出場資格が取り消された。2019年に世界陸連のルールが改定され、血中のテストステロン (注: 男性ホルモンの一種) 濃度が 5nmol/L 以上の女子選手は 400メートルから 1600メートルの競技には出場できないこととなり、両選手のテストステロン濃度が規定値より高いことから、東京オリンピックでの 400メートル競技への出場が取り消された。100メートル、200メートルには出場可能である。(5日付ニューエラ紙1面)

・4日、マテ・スポーツ省次官は、ナミビアン紙の照会に応じて、同ニュースには失望している旨、また、ナミビア・オリンピック委員会は世界陸連と緊密に協議していると承知しており、両選手の出場が認められるようになることを期待している旨述べた。(5日付ナミビアン紙2面)。

●東京オリンピックへの選手団メンバー発表

7日、ナミビア・オリンピック委員会は、来る東京オリンピック参加選手団メンバーを発表した。選手11名及びコーチ等17名の構成で、選手名簿は次のとおり。

陸上 (200m) : Christine Mboma、Beatrice Mashilingi

マラソン : Helalia Johannes、Rainold Thomas

ボクシング : Jonas Junias Jonas

サイクリング : Dan Craven、Vera Adrian (ロード・サイクリング)

Alex Miller、Michelle Vorster (マウンテン・バイク)

ボート : Maike Diekmann (シングル・スカル)

水泳 : Phillip Seidler (10Km)

(8日付ナミビアン紙23面)

●大統領、東京オリ・パラ選手団を激励

16日、ガインゴブ大統領は、東京オリンピック・パラリンピックに参加予定の選手団代表を官邸に招待し、代表選手は我が国民の中から選ばれ参加資格を得た一握りの代表であり、来るべきオリ・パラでは我が国の国旗を高く掲げてもらいたい旨述べ激励した。(19日付ナミビアンサン紙スポーツ面1面、20日付ナミビアン紙19面)

●ダン・クラヴェン・サイクリング選手のオリンピック出場取下げ

ナミビア・サイクリング連盟は、サイクリング競技に出場予定であった Dan Craven 選手が新型コロナに感染していることが判明したので、同選手の参加を取り止める旨公表し

た。世界サイクリング連盟の許可が得られれば Dan Craven 選手に替え、De Lange 選手が参加することとなる。(19 日付ナミビアンサン紙スポーツ面 1 面)

(了)